

共同研究事例Ⅶ

研究者
合同会社加速流
グリーンパワー研究所

研究期間
令和6(2024)年度～
令和8(2026)年度

●背景・課題

2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることが求められており、風力発電は再生可能エネルギーの一つとして脱炭素に貢献することが期待されています。

●研究内容

この研究では、実用化モデルの開発に向けた、集風装置を組み込んだ小型風力発電装置の自然風での発電能力の検証・開発を行います。

●得られる効果、成果、展望

従来よりも高出力が得られるため、脱炭素化に向けたアプローチに対して、再生可能エネルギー活用の一助となることを目指します。

実証フィールド

区役所屋上等

連携型共同研究事業

脱炭素社会の構築

小型風力発電装置の研究開発

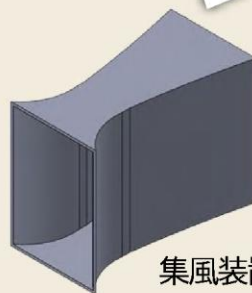
研究概要図

集風装置を設置した風力発電のデータ収集・解析

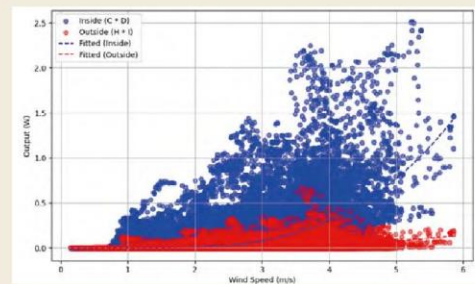
- ①縮尺モデルでの実証実験
- ②実用機サイズでの実証実験



集風装置を設置した風力発電



集風装置



データ収集・解析

小型風力発電機に独自に開発した集風装置を組み込む
→従来の風力発電よりも高出力